

目次

序文～ご挨拶～	1
第1編 サミット概要	5
第1章 G7サミットの概要	6
1 G7サミットとは	6
2 G7サミットの歴史	6
第2章 G7広島サミットの概要	7
1 日程	7
2 参加国・参加者	10
3 関連施設	11
4 首脳会議等の概要及び成果	15
第3章 パートナーズ・プログラム	26
第2編 サミット開催に向けて	35
第1章 誘致・決定	36
1 経緯	36
2 誘致の決定	36
3 広島 of 提案内容	36
4 2023年G7サミット広島誘致推進協議会	37
5 国による事前調査	37
6 国への要望活動	37
7 開催の決定	38
8 開催日の決定	38
9 海外開催地視察	38
10 三重県視察	38
第2章 体制	39
1 広島サミット県民会議	39
2 広島県及び広島市における庁内の推進体制	41
3 広島サミット国関係機関連絡会議	44
4 広島サミット市町連絡調整会議	45
5 サミット開催前後における国への応援体制	46

第3編 県民会議等の取組	47
第1章 概要	48
1 取組の基本的な考え方	48
2 企業、団体等との協働の推進	49
3 広報計画	49
第2章 開催支援	51
1 県産食材、県産品等の活用推進	51
2 宿泊予約センターの設置	52
3 弁当供給センターの設置	53
4 学生ボランティアの募集	55
5 インフォメーションカウンターの設置	58
6 住民説明会の開催等	59
7 地元関係者への識別証等の発行及びフェリー減便への対応等	62
8 贈呈品	64
9 先遣隊歓迎レセプションの開催	66
10 G7首脳等に対する歓迎行事等	67
11 政府高官歓迎レセプションの開催	70
12 国際メディアセンターの設置支援	71
13 政府関係者、報道関係者の移動支援	72
14 NPO/NGOとの連携	73
サミットこぼれ話	74
第3章 おもてなし	75
1 カウントダウンボード等の製作・設置	75
2 G7広島サミットフォーラムの開催	77
3 プレイベント（G7広島サミット直前スペシャルスプリング）の開催	78
4 イベントや商業施設等でのPR	81
5 花を活用したおもてなしの実施	84
6 クリーンアップ運動の促進等	85
7 通訳案内士及び交通事業者向けの研修の実施	86
8 電車・バス等へのラッピング	87
9 モザイクアート制作（Smile for Peace Project）	93
10 歓迎バナー等の設置	95
第4章 平和の発信	97
1 サミットフォーラム（平和発信）の開催	97
2 被爆楽器を活用した演奏会	98
3 海外メディアを通じた平和発信	99

4	被爆の実相・復興の歴史の発信	100
5	各国首脳等による平和記念公園訪問の実施支援	101
第5章	広島の魅力の発信	103
1	SNSによる情報発信	103
2	ホームページによる情報発信	104
3	県民会議ロゴの制作	106
4	ポスター等の掲示物の制作	108
5	G7広島サミットPR動画・おもてなしメイキング動画の制作	111
6	行政広報紙によるPR	117
7	プレス用ガイド情報の制作	119
8	海外メディア等に向けた飲食店ガイドの制作	119
9	プレスタワーの実施	120
10	在外日本大使館における天皇誕生日祝賀レセプション等でのPR	124
11	公益財団法人フォーリン・プレスセンター等を活用した魅力発信	124
12	サミットに合わせて来訪した警察関係者への魅力発信	126
13	国際メディアセンターにおける広島の情報発信	126
第6章	ポストサミットを見据えた若者の参画	135
1	G7広島サミットジュニア会議の開催	135
2	サミット塾の実施	137
3	Y7サミット代表団への平和プログラム等の提供	139
4	サミット関係施設の見学	140
第7章	広島県及び広島市等の取組	141
1	広島県各局等の主な実施事業・取組	141
2	広島市各局等の主な実施事業・取組	150
3	警備・消防・防災・危機管理・保健医療・インフラ整備	155
第8章	その他市町の取組	175
1	自治体連携イベント	175
2	各市町の取組	181
第9章	関係閣僚会合開催自治体との連携	211
第10章	サミット終了後の取組	212
1	サミットの開催を後世に伝える取組	212
2	パートナーズ・プログラムを記念した植樹	213
第4編	予算・決算	215
第1章	県民会議の予算・決算	216
第2章	広島県及び広島市の予算	219

資料編	225
資料1 広島サミット県民会議規約	226
資料2 広島サミット県民会議役員	232
資料3 広島サミット県民会議部会運営規程	233
資料4 広島サミット県民会議企画運営部会委員	235
資料5 広島サミット県民会議事務局規程	236
資料6 広島サミット庁内連絡会議設置要綱	239
資料7 広島市G7サミット推進本部設置要綱	241
資料8 広島サミット県民会議ロゴ使用要領	243
資料9 応援・協賛 応募要領	250
資料10 民間企業・市民団体等からのG7広島サミットを応援する取組・協賛の実績	252
資料11 寄附に関する手続き	296
資料12 広島サミット県民会議寄附金取扱要綱	300
資料13 寄附金の実績	302
資料14 サミット食材等活用リスト	303
資料15 プレスツアーの取材に基づく報道実績	325
資料16 広島情報センター及び国際メディアセンターにおける 政府広報展示スペースの出展内容一覧	329
資料17 G7広島サミットジュニア会議 成果文書	335
資料18 G7広島サミット及び関係閣僚会合開催自治体共同宣言	341
資料19 広島サミットに係る経済波及効果等の推計結果	343
資料20 (広島県) G7広島サミット開催時における小型無人機の飛行の禁止に関する条例	355
資料21 G7広島首脳コミュニケ (2023年5月20日)	360

※本文に記載の役職等は、行事等実施時点での情報を記載



記録誌

〔G7広島サミット記録誌 (Web版) はこちらから〕

序文～ご挨拶～

広島サミット県民会議会長

広島県知事 湯崎 英彦



G7広島サミットが令和5年（2023年）5月19日から21日の3日間にわたり開催され、無事に閉幕しました。

サミットの開催に当たっては、多くの皆様にご理解・ご協力をいただき、安全・円滑にサミットを行うという開催地としての責務を果たすことができましたことに、心より感謝を申し上げます。

今回のサミットは、ロシアによるウクライナ侵略など、国際情勢が緊迫化し、核兵器使用のリスクが高まっている中での開催であったため、とりわけ「平和の回復と維持」が重要なテーマであり、サミットのテーマと、原子爆弾による破壊から復興した広島の地が持つメッセージ性がかつてないほど一致した歴史的なサミットになりました。G7や招待国の首脳、国際機関の長などの皆様が、広島に集い、被爆の実相に触れ、対話を重ねられたことは、世界に大きなインパクトを与え、世界平和の実現に向けた力強いメッセージになったと実感しております。

また、広島の魅力についても、海外メディアに向けたプレスツアーの実施、国際メディアセンターでのおもてなし等を通じて、先人たちが築き上げてきた広島の産業、多彩な食資産、文化などを、世界に発信することができました。

サミット成功に向けてオール広島で取り組んだ結果、訪問者の方々を広島ならではの温かいおもてなしでお迎えできたことによって、被爆の惨禍から目覚ましい復興を遂げた広島だからこそ感じられる平和による繁栄のメッセージを届け、世界中に広島ファンを増やすことができたかと確信しています。

加えて、空港での歓迎セレモニー、パートナーズ・プログラムやインフォメーションカウンター等において、多くの学生ボランティアの方に参加いただき、首脳等の平和記念公園訪問時には、地元の子供達から花輪を渡していただくなど、様々な場面で若い方々に参加していただいたことは、広島の担い手である若者の自発的な行動を後押しするきっかけになったものと考えております。

私たち、広島サミット県民会議は、令和4年7月の設立趣意書で、来広する各国首脳や関係者に「広島に来て良かった」と、そして、参加者等をお迎えする県民等からも「広島で開催されて良かった」と思っていただけのサミット開催を目指して様々な取組を行いました。サミット開催後には、多くの参加者や地元住民などの皆様から今回のサミットを好意的に受け止めているとの声をいただいております、目指していたサミットの開催が実現できたものと思っております。

こうした広島でのサミット開催の経験や成果は、県民一人ひとりにとっても「誇り」となり、大きな財産になったものと考えております。これを一過性とすることなく、引き続き、平和発信や観光・産業の振興など広島の発展に尽力してまいります。

そしてこの度、G7広島サミットの記録・記憶を後世に引き継ぐため、サミットの誘致段階から開催までの取組をとりまとめ、記録誌として刊行しました。是非ご一読いただき、歴史的なG7サミットがここ広島で開催されたことを改めて思い起こしていただくとともに、今後行われる様々な取組に役立てていただければ幸いです。

最後になりますが、G7広島サミットの開催に当たり、岸田総理をはじめ政府関係者の皆様のご尽力に心から敬意と感謝の意を表しますとともに、サミットの円滑な開催にご尽力いただいた警察・消防・医療など全ての関係者の皆様、サミットの開催にご協力いただいた広島県民の皆様から感謝申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。

ご挨拶

広島サミット県民会議副会長
広島市長 松井 一實



G7広島サミットを無事、成功裏に終えることができました。これもひとえに、市民・県民や事業者の皆様をはじめ、サミットの開催を支えてくださいました関係者皆様のご協力とご尽力の賜物であり、心から感謝申し上げます。

今回のサミットでは、核兵器を保有する4か国を含むG7各国及び8か国の招待国の首脳、国連など6つの国際機関の長、さらには、戦火の中にあるウクライナのゼレンスキー大統領が被爆地広島を訪れ、広島平和記念資料館を訪問し、被爆者と対話されました。

各国首脳等に直接被爆の実相を知っていただくことは、本市が推進している「迎える平和」の一環として核兵器廃絶に向けた大きな一歩となることから、広島サミット県民会議としても平和プログラムの実現を政府に強く要望してきたものであり、史上初めてこのように多くの現役の首脳等が揃われた中で実現しました。

また、各国首脳等が資料館訪問後の芳名録に、核兵器のない平和な世界への願いを込めたメッセージを残されたことは、「迎える平和」の一里塚が出来上がったと同時に、世界の政治リーダーに被爆の実相を知っていただくことの意義や重要性を改めて強く感じているところです。

原爆死没者慰霊碑へ参拝・献花された際には、私から各国首脳等に直接、碑文の説明を行う機会をいただきました。その説明の中で、戦争や紛争などの被害に遭った人々は、相手への憎しみや復讐心に支配されますが、被爆者は、過去の悲しみに耐え、憎しみを乗り越えて、「こんな思いを他の誰にもさせてはならない」との思いで全人類の共存や繁栄を願っており、これがまさに「ヒロシマの心」ですという趣旨を説明し、各国首脳等にはしっかりと受け止めていただいたと思っています。

今回のサミットでは、核保有国を含むG7の首脳による合意の下で「核軍縮に関するG7首脳広島ビジョン」が独立の文書として初めてまとめられ、「全ての者にとっての安全が損なわれない形で」という条件を付けながらも、核兵器のない世界の実現を目指すというメッセージが世界に向けて発信されました。また、プレスツアーや国際メディアセンターでの展示などを通して、国内外の多くのメディアに向けて核兵器のない平和な世界を願う「ヒロシマの心」や、産業・文化・伝統など広島のような魅力を発信することができ、さらには、多くの若者に平和発信をはじめとした様々な場面でサミットに関わっていただくなど、平和な世界の実現に繋がる多大な成果があり、歴史に残るサミットになったのではないかと受け止めています。さらに、広島が、被爆の廃墟から「平和記念都市」として美しいまちへと復興した恒久の平和を誠実に実現しようとする理想の象徴として世界中に認識される重要な機会になったと捉えています。

本市としては、サミットの経験や成果を生かし、広島を持続的な発展はもとより、「迎える平和」の推進や日常生活の中で平和を願う「平和文化」の振興などにより、真に平和な世界が実現するよう一層力を入れて取り組んでまいります。今後とも皆様のご支援とご協力をお願いいたします。

最後に、改めて、G7広島サミット開催をご決定くださった岸田総理をはじめ、政府関係者の皆様のご尽力に深く敬意と感謝の意を表しますとともに、サミット開催にご協力をいただきました市民・県民や事業者の皆様、サミットに関わっていただきました全ての皆様に、心より厚くお礼を申し上げます。

ご挨拶

広島サミット県民会議副会長

広島県商工会議所連合会会頭 **池田 晃治**



G7広島サミットが無事成功裏に閉幕いたしました。

県民・市民の皆様をはじめ、事業者、政府関係者、各地から派遣された警察官など、多くの皆様のご支援・ご協力のおかげであり、深く感謝申し上げます。

交通総量50%削減へのご協力をはじめ、街の清掃に自主的に取り組んでいただく「クリーンアップ運動」、地場企業の戦後の復興の歩みや将来の取組を展示する「Pride of Hiroshima展」の開催など、ご協力いただきました皆様に心よりお礼申し上げます。

G7広島サミットでは、G7や招待国の首脳に広島平和記念資料館の訪問や被爆者との対話などを通して、被爆の実相に触れていただくことができ、核廃絶に向けた大きな一歩となりました。

国際情勢が緊迫化する中、世界初の被爆地で、その後目覚ましい復興を遂げた広島から、力強い平和へのメッセージが全世界に発信されたことは大きな意味があり、国際平和へ一層前進する機会となったと感じております。今後のより具体的な実行・実践を期待しております。

経済界としては、サミットを通じて、広島の歴史・文化・食資産など、当地域の多彩な魅力を広く発信することができ、大変嬉しく思っております。広島が世界トップレベルの国際会議を安全に開催できるハード・ソフトを兼ね備えた都市であることを示すことができたほか、関連行事に携わっていただきました当地域の若者にとっても、世界に目を向けてもらう、大変素晴らしい機会になったと思います。

今後も官民一体となり、インバウンド需要の拡大を見据えた環境整備や更なる誘客の促進、MICE誘致に向けた取組の推進、県産品の販売拡大などを通じて、地場産業を大きく育て、関係人口と交流人口の増加へとつなげていきたいと思っております。

また、サミット開催が契機となり、当県の基幹産業である“ものづくり産業”が一層伸長し、観光をはじめとする多彩な“サービス産業”についても更なる成長・発展を遂げ、当地域の産業構造がより力強いものとなるようサポートしてまいります。

当地でのサミット開催により、広島が今後更なる成長・発展を遂げることができる大きなチャンスをいただくことができました。経済界といたしましても、このチャンスを追い風にして広島の更なる発展につなげていくよう、引き続き官民が連携したオール広島で様々な取組を進めてまいります。

結びに、サミットに関わっていただいた全ての方にお礼申し上げます。誠にありがとうございました。

ご挨拶

広島サミット県民会議

顧問 広島県議会議長 中本 隆志



G7広島サミットが成功裏に閉幕したことは、誠に喜ばしく、本県にとりまして、将来へつなげる大きな自信となりました。

この度のサミットは、史上初めての被爆地での開催となり、世界が、ロシアによるウクライナ侵略や、核の脅威に直面する中、G7の首脳が、被爆の実相に直接触れ、広島ビジョンを発出し、ウクライナのゼレンスキー大統領との連帯を示したことなどは、意義深い成果であり、世界に向けて平和のメッセージを強力に発信することができました。

また、各国首脳の前宮島訪問や、県産食材を使用した料理の提供などにより、本県の多彩な魅力が発信され、本県への関心を高めることもできました。

今後は、こうした成果を、「核兵器のない平和な世界」の実現や国内外からの観光誘客などによる本県のさらなる発展につなげていかなければなりません。引き続き、関係各位のご協力をよろしくお願いいたします。

最後になりますが、広島開催を決定され、議長として会議を成功に導かれた岸田総理をはじめ、政府関係者の皆様に、敬意と感謝の意を表しますとともに、開催にご協力をいただいた全ての方々にお礼を申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

ご挨拶

広島サミット県民会議

顧問 広島市議会議長 母谷 龍典



G7広島サミットの開催に当たり、その支援等に取り組んだ県民会議の一員として、一つになった広島の「まち」のパワーを肌で感じ、その力強さに深い感銘を覚えました。

世界で核兵器を巡る情勢が厳しさを増す中、人類史上最初の被爆地である広島で開催された今回のサミットは特別な意味を持つものとなりました。核保有国を含む各国の首脳が被爆地に集い、被爆の実相に触れるとともに、「核兵器のない世界」を目指すという強い意志を表明したことは、歴史的に大きな意義があったものと受け止めています。

また、サミット開催地である広島が世界から注目を集め、特色ある歴史や文化、緑豊かな山々や清らかな川が織り成す自然美、多彩で美味しい食など、広島の様々な魅力を広く発信することができました。

市議会といたしましても、この度のサミットのレガシーをしっかりと受け継ぎ、今後とも、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現を願う「ヒロシマの心」を広く世界に発信するとともに、国際平和文化都市広島の実現に向けたまちづくりの推進に注力してまいります。

終わりに、G7広島サミットの開催にご尽力いただきました関係者の皆様に心から敬意を表しますとともに、ご協力を賜りました多くの事業者や市民・県民の皆様に深く感謝申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。